

日本移民学会第 33 回年次大会プログラム

【日時】：2023 年 6 月 24 日（土）・25 日（日）

【会場】 神田外語大学 4 号館

【問い合わせ先】 大会企画委員会：iminkikaku@gmail.com

【主催】 日本移民学会

大会企画シンポジウムテーマ：関わり合いの移民研究

現代日本社会では、さまざまな国や地域にルーツをもつ人々が暮らしている。2022 年 6 月末の在留外国人数は約 290 万人で、中国、ベトナム、韓国、フィリピン、ブラジル、ネパール、インドネシア、アメリカ合衆国、タイ、台湾など多様な国々にルーツをもつ。さらに、アイヌ、琉球王国、そして被差別部落の人々の歴史などを考慮すると、ルーツに関する多様性の実態は国籍だけではとらえきれない。こうした社会集団に関して蓄積されてきた研究成果の多くは、人種や民族をめぐる差別に抗い共生社会を築くうえで知的基盤となってきた。しかしながら、複数の集団間の関わり合いについてはまだまだ研究の余地が残されている。日本各地で異なるルーツをもつ人々が家庭、地域社会、または職場などで関わり合ってきた。本シンポジウムでは、在日コリアン、沖縄系在日ブラジル人、マルチエスニックな職場で働く移住女性、在日ペルー人らに関する具体例を示しながら、こうした関わり合いの一部に光を当てる。シンポジウムでの議論を通して、マイノリティとマジョリティという二項対立では理解しきれない移民社会の多様性と可能性だけでなく、マジョリティ側が生み出す社会規範の問題点も新たな視点から見出すことができるだろう。また、関わり合いという観点からは、支援者らの活動にみられるような、マジョリティ内の多様性についても理解を深めることができるだろう。登壇者による報告後はフロアとの対話を通して、かつての日本人移民や日本国外の海外移民の事例との比較などについても考えたい。

大会企画委員長 徳永 悠

開催校企画シンポジウムテーマ：

「世界のウチナンチュ」を考える—広がるウチナーネットワークの課題と可能性—

2022年10月31日～11月3日、沖縄県にて「第7回世界のウチナンチュ大会」が開かれた。沖縄県は日本有数の移民県であり、北米・南米をはじめ世界に約42万人の県系人がいるとされている。世界に広がるこのようなウチナンチュ（沖縄県系人）のネットワークを確立し発展させることを目的に1990年から「世界のウチナンチュ大会」が開催されている。2022年の大会はさらに「ウチナーネットワークを継承、発展させるとともに、ソフトパワーや最新技術の活動による持続可能な交流・協力を実践し、沖縄のみならず各地の発展に寄与すること」を目指している。また、大会の開催を皮切りに、1997年に「世界ウチナンチュ・ビジネス・ネットワーク（WUB）」が設立され、2011年に「世界若者ウチナンチュ連合会（WYUA）」や「ウチナーネットワークコンシェルジュ（UNC）」が結成されるなど、トランスナショナル・ネットワークを形成する動きは、近年ますます活性化している。

本シンポジウムでは「世界のウチナンチュ大会」など、エスニック・コミュニティとのつながりの維持・強化を目指す取り組みを取り上げ、ウチナーネットワーク構築の課題と可能性を議論する。ウチナンチュアイデンティティや沖縄の文化と言葉の継承、次世代担い手の創出とリーダー育成、ネットワークを活用したビジネスの支援、様々な切り口から移民の歴史や今後のウチナーネットワークの在り方を検討する。

第1部では、「第7回世界のウチナンチュ大会」の大会調査に調査員として参加した学生が大会イベント等の観察を通して、沖縄県系移民や沖縄県について考えたことをテーマにトークセッションを行う。第2部では、4名の研究者と2名のコメンテーターが「ウチナーネットワーク」に関するディスカッションを行う。

開催校 グスターボ・メイレス、拝野 寿美子

■ 大会第1日目：6月24日（土）

9:00 ～ 16:00	受付（1階入り口）
9:30 ～ 12:05	自由論題報告 4会場（3階4-301、4-302、4-303、4-304）
13:00 ～ 17:00	大会企画シンポジウム（1階4-101） タイトル：関わり合いの移民研究 趣旨説明：徳永 悠（京都大学） 司会：フェリッペ・モッタ（京都外国語大学） 報告1. 孫片田 晶（立命館大学）「連帯の中のカテゴリー——ウトロを守る運動で紡がれた人と人の関わり」 報告2. 藤浪 海（関東学院大学）「地域社会とつながりあう在日ブラジル人——「沖縄系」としての生活史に注目して」 報告3. 大野 恵理（獨協大学）「マルチエスニックな職場で生まれる関わり合い—移住女性のローカルな居場所に着目して」 報告4. 小波津 ホセ（宇都宮大学）「在日ペルー人の世代間に関わり合う空間——ペルー人アソシエーションの活動を事例に」 コメント：三浦 綾希子（中京大学）、森本 豊富（早稲田大学）
17:10 ～ 17:50	総会（1階4-101）

17:50 ~ 18:00 第1回学会奨励賞授賞式 (1階 4-101)

18:00 ~ 19:00 交流会 (会場未確定、茶菓のみ)

■ 大会第2日目：6月25日(日)

9:30 ~ 12:30 受付 (1階入り口)

開催校企画シンポジウム (1階 4-101)

タイトル：「世界のウチナーンチュ」を考える—広がるウチナーネットワークの課題と可能性—

司会：長村 裕佳子 (JICA 緒方研究所)

趣旨説明：グスターボ・メイレス (神田外語大学)

第一部：移民と教育

学生から見た「世界のウチナーンチュ大会」(各発表10分：計20分)

1. 千田 綾音 (神田外語大学)

2. 仲宗根 成美、上里 あん (琉球大学)

コメント：アンジェロ・イシ (武蔵大学)

第二部：ウチナーネットワークの課題と可能性

研究発表

1. 加藤 潤三 (立命館大学) 「「世界のウチナーンチュ大会」大会調査からみるウチナーネットワークのシンカ」※オンライン参加

2. 山里 絹子 (琉球大学) 「ディアスポラと沖縄戦の記憶の継承」

3. グスターボ・メイレス (神田外語大学) 「ブラジルにおける沖縄系コミュニティの変遷から「世界のウチナーンチュ大会」を考える」

4. 野入直美 (琉球大学) 「移民と教育—沖縄の海外移住者子弟研修生と地元学生の学びを中心に」

コメント：白水 繁彦 (武蔵大学/駒澤大学)、佐原 彩子 (共立女子大学)

13:00 ~ 17:10 ラウンドテーブル 4会場2部制 (3階 4-301、4-302、4-303、4-304)

1部 13:00~15:00、2部 15:10~17:10

17:20 ~ 18:00 理事会 (3階 4-306)

◆自由論題報告

A会場 (3階 4-301)		司会：徳永 悠、和泉 真澄
武井 勲 (日本大学)	第二次世界大戦期の米国テキサス州におけるフォート・サム・ヒューストンおよびフォート・ブリス臨時収容所と収容者の実態	
森本 豊富 (早稲田大学)	戦時下、在米日系人の言語維持と継承—強制収容所における日本語使用状況	
嶋田 健一郎 (京都大学 (院))	日系アメリカ人二世の功績と犠牲をめぐる越境的言説形成：占領期日本における移民県新聞と知米派ジャーナリズムを中心として	

金本 伊津子 (桃山学院大学)	ニューヨーク在住日本人・日系人高齢者のリターン・マイグレーション
-----------------	----------------------------------

B 会場 (3 階 4-302) 司会：藤浪 海、劉 昊	
張 龍龍 (北京工業大学)	遅れた家族形成：台湾戒厳令解除以降に結婚した大陸籍<青年兵士>たち
城 渚紗 (東京大学 (院))	サハリン残留コリアンの帰国を巡る韓国政府の認識と日韓協力—1980年代を中心に—
齊 艶栄 (横浜市立大学 (院))	中国農村出稼ぎ移民の海外移住プロセスと生活戦術
閻 美輪 (東京大学 (院))	高度外国人材の移動の再考—日本における中国系新移民の定着過程の事例から—

C 会場 (3 階 4-303) 司会：長村 裕佳子、フェリッペ・モッタ	
塚本 陽子 (京都大学 (院))	入国管理政策から考える「日本人の配偶者」の意味—1980年代から1990年代までの国会議論と報道を通して—
白石 佳和 (高岡法科大学)	ブラジルのハイク継承における日系準二世の仲介活動
欒 孟聡 (神戸大学 (院))	日本における新華人の文化的な活動空間の生成とシンボル化のプロセス
北脇 実千代 (日本大学)	20世紀前半における日米間の女性の移動性とキャリア形成—ロサンゼルスと広島で設立された洋裁学校を事例として

D 会場 (3 階 4-304) 司会：ファクンド・ガラシーノ、芝野 淳一	
リーペレス・ファビオ (宇都宮大学)	疎遠な人との関わり方から移動について考え直す—ストレンジャーの友人関係から
沼田 彩誉子 (東京外国語大学)	カテゴリーとしての「トルコ人」—20世紀前半東アジア生まれタートル移民の「真の国民」をめぐる経験
シェリエ・ポリーヌ (Aix Marseille University)	日本における移民史の表象～大泉の「日本定住資料館」
大関 絢子 (神戸大学 (院))	人の移動に関する展示についての—考察

◆ラウンドテーブル

1 部 13:00～15:00

ラウンドテーブル A (3 階 4-301)	
中国帰国者研究の新地平を拓く—ポストコロニアル帰還移民という視座	
モデレーター：蘭 信三 (大和大学)	
日本社会における分断と統合の境界を問う—戦後引揚者・中国帰国者を事例として	

劉 罡 (名古屋大学 (院))

残留孤児裁判の意味するもの—アイデンティティ・ポリティクスの視座から

張 唯 (筑波大学 (院))

『中国帰国者二世・三世』にとっての「同化」とは
コメント

伊吹 唯 (熊本保健科学大学)
坪谷 美欧子 (横浜市立大学)

ラウンドテーブル B (3 階 4-302)

続ジェイムズ・H・ワカサ銃殺事件：故郷訪問と 80 周年追悼記念式典

モデレーター：柳澤 幾美 (名古屋外国語大学他)

ワカサ銃殺事件と追悼碑の喪失、再発見、そして顕彰
ワカサの故郷訪問と追悼講演会、式典報告

柳澤 幾美 (名古屋外国語大学他)

ナンシー・ウカイ (Wakasa Memorial Committee, Zoom 参加予定)

上映：ショート・ドキュメンタリー (記念公演、記念式典) (エミー賞受賞の映像作家、エミコ・オーモリ作品)

ラウンドテーブル C (3 階 4-303)

ブラジルの日系人集住地の歴史の変遷と越境的移動

モデレーター：名村 優子 (サンパウロ人文科学研究所日本支部)

移住者と留守家族を繋ぐ—『移住家族』にみる海外移住家族会の機能について—

長尾 直洋 (名桜大学)

農業の変化による日系人の越境的移動と日系社会の対応—パラ州トメアス—移住地の事例から—

半澤 典子 (ブラジル移民史研究家)

再来日した日系三世の女性にみる自己投資の場としての日本—サンパウロ州マリリア日本語学校の元学習者の移動の事例から—

中澤 英利子 (横浜市立大学大学院)

日本から帰国する日系人の再編入と日系社会の変化—パラナ州出身者をめぐる経験と活動の事例から

長村 裕佳子 (JICA 緒方研究所)

ラウンドテーブル D (3 階 4-304)

和歌山県における移民をテーマとした取り組みの状況と連携について

モデレーター：東 悦子 (和歌山大学)

移民の記憶と遺物の保存活動—一次世代への継承を目指して

東 悦子 (和歌山大学)

海を越える太地—太地町における移民研究と活動

櫻井 敬人 (太地町歴史資料室)

和歌山移民研究と美術—和歌山県立近代美術館の取り組みについて

奥村 一郎 (和歌山県立近代美術館)

和歌山移民研究を軸とした国際ネットワークの構築とウェブサイト「移民と美術」について

青木 加苗 (和歌山県立近代美術館)

2部 15:10～17:10

ラウンドテーブル E (3階 4-301)

米軍統治下の沖縄における移動と「植民地経験」

モデレーター：野入 直美 (琉球大学)

大連引揚者の外地経験と戦後沖縄労働運動：奄美・大連・沖縄をめぐる林義巳のライフストーリー

佐藤 量 (立命館大学)

剣道・台湾・引揚げ—米軍統治下沖縄の復興と松川久仁男

菅野 敦志 (共立女子大学)

戦後沖縄における糖業復興：製糖経験と沖縄ディアスポラの連続性

飯島 真里子 (上智大学)

戦後沖縄の糖業開発における大宜味村江州への開拓移住の経験

座間味 希呼 (大阪大学 (院))

ラウンドテーブル F (3階 4-302)

在日コリアンとトラウマ—映像作品《In-Mates》から考える

モデレーター：李 里花 (中央大学)

映像作品制作者の視点から

飯山 由貴 (アーティスト)・FUNI (ラッパー・詩人)

1923年後の在日コリアンへの精神的圧迫をめぐって

外村 大 (東京大学)

虐殺と同化政策—colonization と intergenerational trauma

鄭 暎恵 (MacEwan University (院))

ラウンドテーブル G (3階 4-303)

制度的に完備された移民コミュニティはどのように作られるか？—移民集住地域／保見団地における教育の側面に注目して

モデレーター：三浦 綾希子 (中京大学)

保見団地における「移民問題」の生成史—教育の側面を中心に

渋谷 努 (中京大学)

切れ目のない支援を目指して—多様なアクターの連携による制度づくり

山脇 佳 (中京大学 (院))

スティグマに立ち向かう—移民集住地域におけるユニバーサルな学校づくり

芝野 淳一 (中京大学)

経験のなかで模索される移民の子どもへの支援—20年以上にわたる NPO の活動史から

中原 慧 (京都大学 (院))

ラウンドテーブル H (3階 4-304)

パンデミック下での「介護移民」社会の変容—日本各地とハワイでの調査からわかったこと

モデレーター：大野 俊 (清泉女子大学)

パンデミック下での『介護移民社会』の変容とそこでの諸問題—日本とハワイ

大野 俊 (清泉女子大学)

コロナ期における外国人介護従事者のモビリティ

安里 和晃 (京都大学)

なぜ特定技能へ移行したのか—ベトナム人介護職員からの聞き取り調査より

比留間 洋一 (静岡大学)

フィリピン人介護職員の定着に向けた取り組み—静岡県の事例から

高畑 幸 (静岡県立大学)

■ 大会への出欠について

第 33 回大会の出欠は、日本移民学会 HP トップページ「第 33 回年次大会プログラム・登録フォームのお知らせ」に掲載したリンクから、2023 年 6 月 16 日までに登録してください。参加費については、本学会の会員については無料、非会員は 1,000 円（大会当日に受付にて支払い）となります。

日本移民学会 HP: <http://imingakkai.jp>

■ 昼食について

開催校周辺にはコンビニやレストランはありません。大会両日とも参加申し込みフォームでお弁当の注文を受け付けます。合計 30 個以上の注文がない場合はキャンセルとなります。その際は大会 5 日前までにご連絡します。

■ クローク・交流スペース・ネット環境について

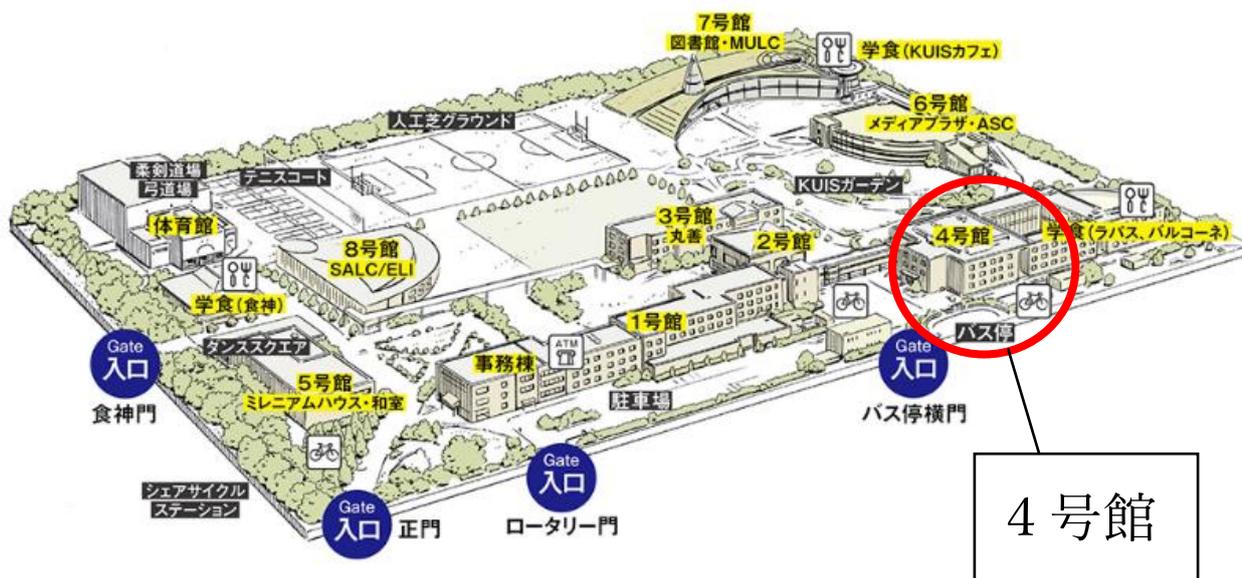
クロークは 1 階 4-102 号室、交流スペースは 3 階 4-305 号室にあります。インターネット接続については、学内の WiFi に入るためのゲストアカウントを発行します。アクセス方法の詳細は会場で案内する予定です

■ 会場について

神田外語大学の構内マップ、およびアクセス情報については以下のリンクをご覧ください。

構内マップ：<https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/campuslife/facilities/>

アクセス：<https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/access/>



■ 大会参加者向けのオンライン書籍販売

▼日本移民学会第 33 回年次大会 割引販売（明石書店）

- ・ 期間：7 月 3 日（日）まで
- ・ 価格：税込価格から 2 割引・送料無料（国内）
- ・ 販売フォーム：<https://bit.ly/4384DN9>

※ ご注文を確認次第、eigy@akashi.co.jp よりメールをお送りいたします。

大会企画委員：

徳永悠、フェリッペ・モッタ、和泉真澄、グスターボ・メイレス、拝野寿美子、藤浪海、劉昊

開催校：グスターボ・メイレス、拝野寿美子